

# 住民主体のまちづくり

No.55 2018. 8

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

## ■ 住んで楽しい街づくり③

本市の伊木隆司市長が提唱する「住んで楽しい街づくり」の思いのつづきを紹介します。

『戦後70年以上、日本人は巨万の富（個人の金融資産1600兆円！）を築き上げてきましたが、では、今、多くの日本人が幸福を感じているでしょうか。これだけの富を蓄積していながら、過労死するほど働かなければいけない人が居たり、そこまでいかなくても規則でがんじがらめの生活を強いられている人々が多いのが実情ではないでしょうか。要するにお金を稼ぐことは上手になっても、それを人々の幸せのためにどう使っていくのかという哲学が日本人には乏しいと思うのです。だから、これからの街づくりには「住んで楽しい」、「ここで暮らして人生が充実している」というような要素をいかに多く取り入れていくかが大切です。幸いなことに、米子市にはきれいな海や美しい山がすぐそばにあります。水もきれいでおいしい食べものも豊富で、暮らしやすさは日本一の水準にあるようです。これを一歩進めて、「住んで楽しい街」に昇華していくことが、次のフェーズでは大切だと思います。



どんなに社会保障費を積んでも、どんなに所得の向上を目指しても、到達したと思ったらまた次のハードルが待っているような考えで働く毎日では一生、幸福にはなれないと思います。だから「住んで楽しい街」をいかにつくるのか。これが新し

い時代の価値観であり、資本主義へアンチテーゼとその対案ではないかと思っています。

「住んで楽しい街づくり」とは、第一には基本理念であって様々な政策にこうした観点が貫かれることが必要だという意味です。そして、「楽しまなければ罪」というほどに、多くの市民の皆様がそれぞれの生活を楽しむことができるようになれば、スペイン人やイタリア人のように経済水準に関わらず人生を謳歌できるようになるのではないかと思います。

これまで戦後70年積み上げてきた日本人の働き方が見直されようとしている今、街づくりに対する考え方、ひいては、人生に対する考え方を見直していかないといけないと思っています。そして、それが具体的に街づくりに活かされ、市民の皆様に浸透していくようにすることが、これからの街づくりに必要な要素ではないかと思っています。』

（おわり）

## ■ ラジオ体操講習会

90年の長い歴史のNHK朝のラジオ体操は「いつでも、どこでも、だれでも」が気軽にできる優れた全身運動です。また、究極のエコな健康法でもあります。しかし、子どもたちはラジオ体操離れの傾向が強く、地域の大人たちと一緒に体操することで、ひとのつながりを深めることのできる手段であると思います。そこで、まちづくり推進会議健康部は、正しいラジオ体操を学ぶ機会を提供しようと企画して「全国ラジオ体操連盟」

の協力を経て7月8日（日）に車尾小学校体育館でラジオ体操指導士から参加者88名が2時間余り指導を受けました。夏休みに各子ども会が行

う「朝のラジオ体操」に繋がって行くと思います。



自分たちのまちは自分たちで（ つくる つなぐ つづける ）